



Think Automation and beyond...



IDEc 株式会社

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目6番64号
TEL: 06-6398-2500(代表)
<http://jp.idec.com>



この報告書は環境に
配慮し、植物油インキを
使用しています。



IDEc Report 2021

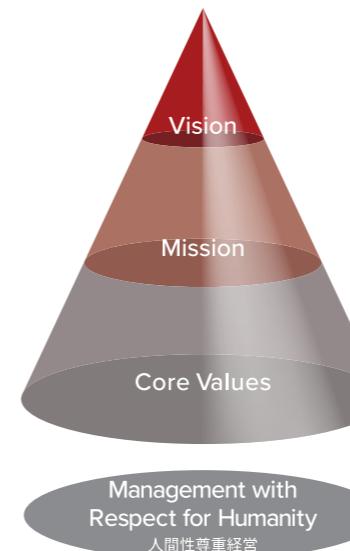
Pioneer the new norm for a safer and sustainable world.

いつも、ずっと、みんなに新しい安心を

IDECKは2020年11月に創業75周年を迎えました。1945年に「和泉商会」として創業以来、人と機械をつなぐHMI(Human-Machine Interface)の開発を続けてきました。

機械の操作スイッチをはじめとする制御機器開発で培ってきたコア技術を活用し、工場などの製造現場やくらしの身近な場面において、人と機械が向き合う接点をより安全に、そして快適にすることで社会に貢献したい。そのために、人はミスを犯すもの・機械は故障するものという前提で、不測の事態でも人を守ることができる、安全・安心・ウェルビーイングの実現と追究を目指しています。

私たちが75年間貫いてきたこの思いを、世界へ、そして次の100周年へとつなげていくために、新たな時代に求められる新しい価値を創造していきます。



The IDEC Way

IDECKグループは、眞のグローバル企業を目指していくための新しい理念として、『The IDEC Way』を制定しました。

Vision ————— 私たちが目指す未来

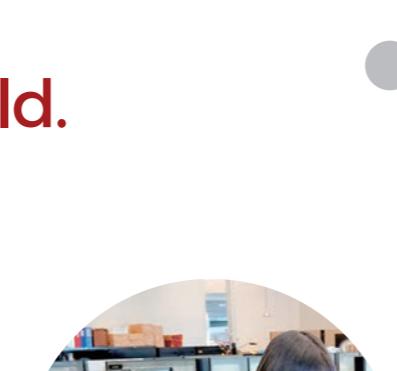
Pioneer the new norm for a safer and sustainable world.
いつも、ずっと、みんなに新しい安心を

Mission ————— 私たちの存在意義・使命

To create the optimum environment for humans and machines.
人と機械の最適環境を創造

Core Values ————— 私たちが共有するべき価値観

詳しくは ▶ P36

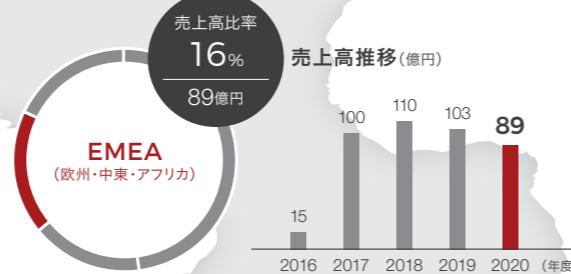
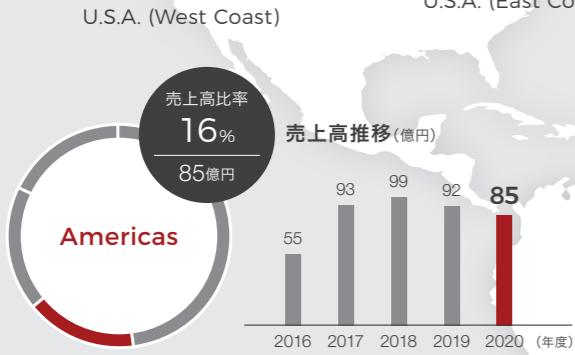


INDEX

- P01 Who We Are
- P02 The IDEC Way
- P03 At a Glance
- P05 IDECグループの歴史
- P07 Value Creation Process
- P09 財務・非財務データ
- P11 CEO Message
- P15 特集:持続的な成長に向けて
- P17 事業紹介
- P28 ESG+Sa+Q
- P35 Company Overview

真のグローバル企業への変革

市場・業界ニーズにマッチした、最適なコンポーネンツ、ソリューション、サービスを提供できる開発・生産・販売体制を整備することで、グローバルで揺るぎない地位の確立を目指します。



グローバルネットワーク (2021年3月末)

Check
01

世界
15か国
889 社員数(連結)
3,780名

半導体
Semiconductor



工作機械
Machine Tools



特殊車両
Special Vehicles

自動車
Automotive



ロボット
Robotics

食品機械
Food and Packaging



エレベータ
Elevators
マテリアルハンドリング
Material Handling

Check
02

9つの注力業界

長年培ってきたFA(ファクトリー・オートメーション)の知見やノウハウを活かし、IDECAグループが強みを持ち、今後成長が期待できる9つの業界に注力しています。

IoTの普及や自動化の進展、産業現場の安全確保など、さまざまな社会課題や顧客ニーズに柔軟に対応するため、幅広いソリューションを提供するとともに、各地域における注力業界を定めることで、グローバルビジネスの拡大を推進しています。

Check
03

製品別売上高

人と機械をつなぐHMI(Human-Machine Interface)分野のリーディングカンパニーとして、多様な製品やソリューションを提供することで、安全・安心・ウェルビーイングの実現に貢献しています。

① スイッチ事業
Industrial Switches

251 億円 / 47%



④ 安全・防爆事業
Safety & Explosion Protection

65 億円 / 12%



② インダストリアルコンポーネンツ事業
Industrial Relays & Components

98 億円 / 18%



⑤ システム
System

32 億円 / 6%



③ オートメーション事業/センシング事業
Automation & Sensing

82 億円 / 15%

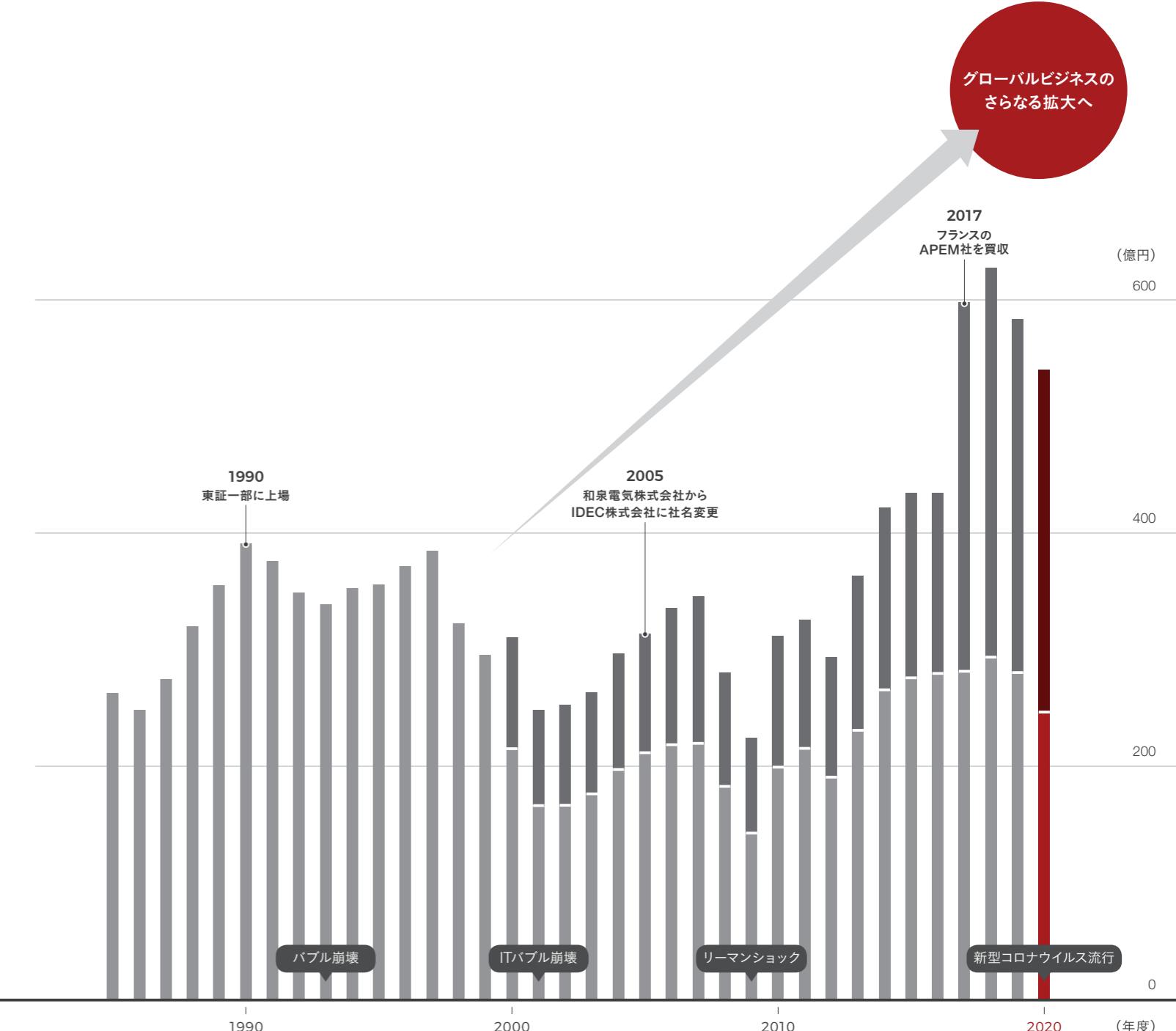
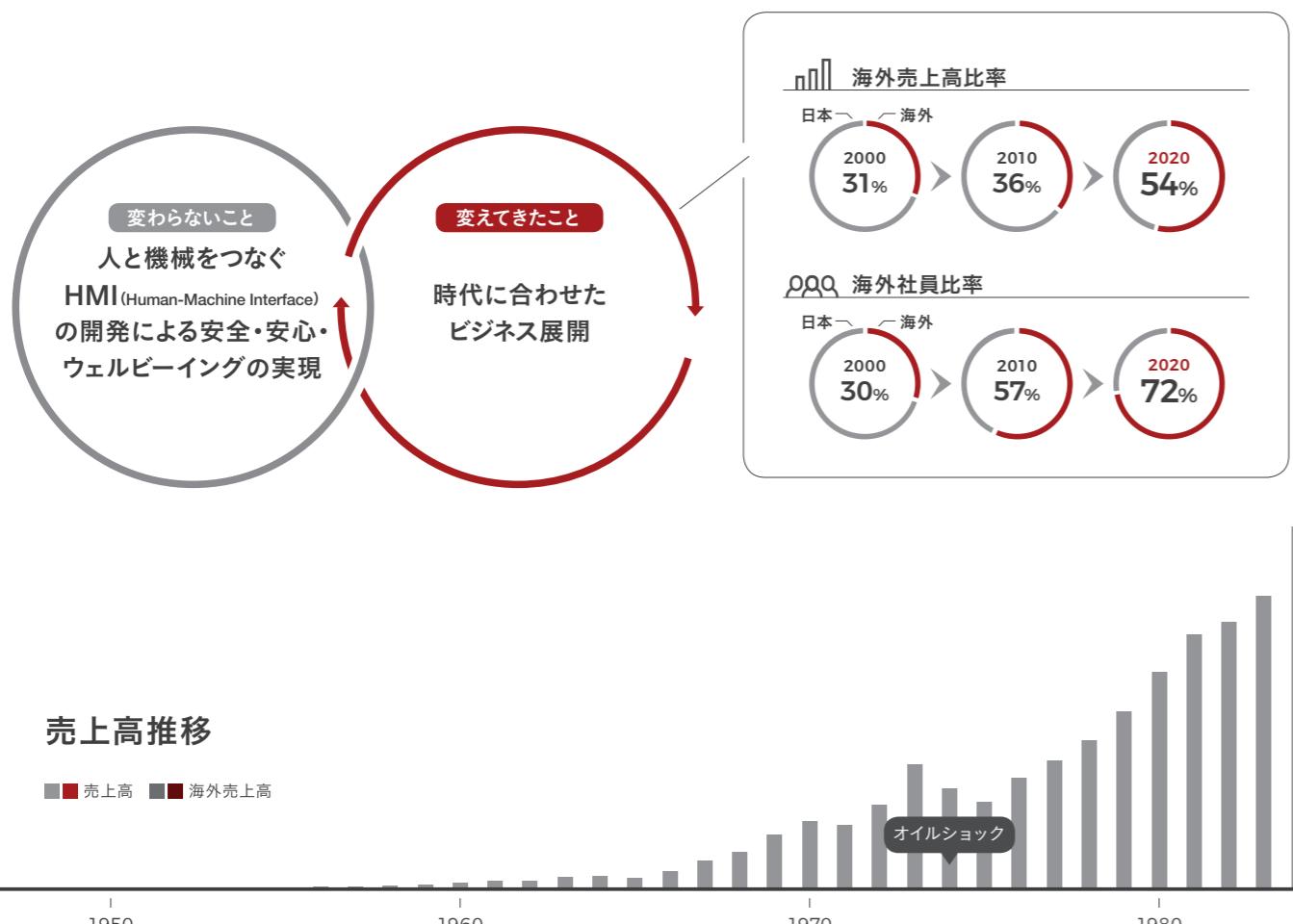


⑥ 新規事業・その他
New Business

12 億円 / 2%



100周年、さらにその先の未来に向けて グローバルな社会課題の解決に 挑戦していきます。



戦後復興のものづくりを支える

創業当時は電気器具の小売、販売を行っていましたが、機械設備などに欠かせない開閉器が不足していたことから高品質の開閉器を開発し、ロングセラー製品となりました。繊維・化学工場、石油コンビナートなどで活躍する防爆関連機器とともに、戦後復興のものづくりを支えました。



SB形金属箱開閉器



小型コントロールユニット



耐圧防爆形コントロールボックス



イエローリレー



国際規格に準拠するコントロールユニットTWシリーズ



Micro-1プログラマブルコントローラ



安全スイッチ



イネーブルスイッチ



小形コントロールユニットLBシリーズ



プログラマブルコントローラFC6A形



APEM製品



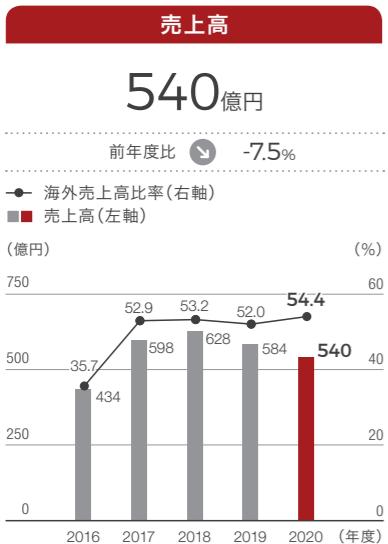
Push-in製品

Value Creation Process

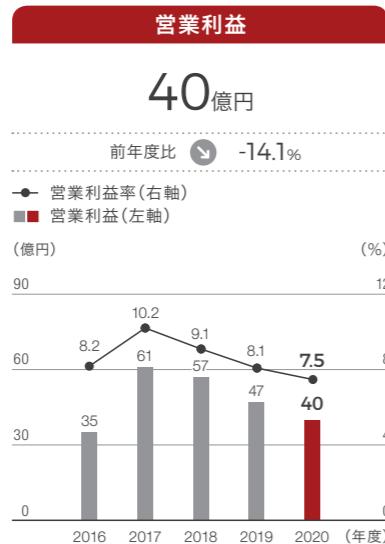
IDECグループは創業以来、制御技術や安全技術を核とする製品やサービスを社会に提供してきました。事業活動を通じてさまざまな社会課題を解決することで、世界のものづくりの現場とくらしのシーンにおける、自動化・省力化・効率化の推進、安全・安心・ウェルビーイングの実現、環境負荷低減に貢献し、持続可能な社会の実現を目指しています。



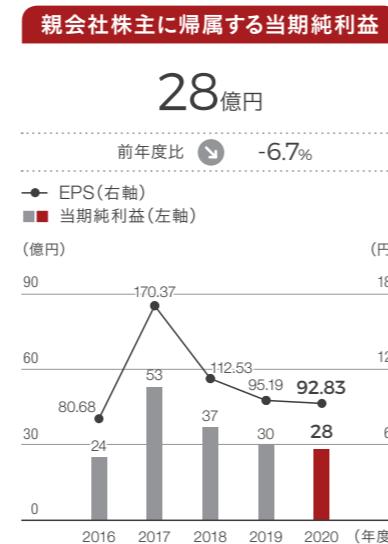
財務データ 連結



新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、中国を除く各地域で、システム以外の各製品群の売上が減少しました。海外売上高比率は、54.4%となりました。



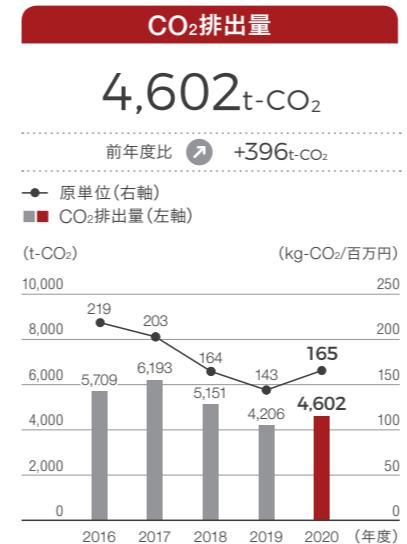
グローバルで販売管理費の削減を推進したものの、スイッチ事業など主力製品群の売上が減少したことなどから、営業利益率も減少しました。



主に営業利益が減少したことにより、当期純利益も減少しました。

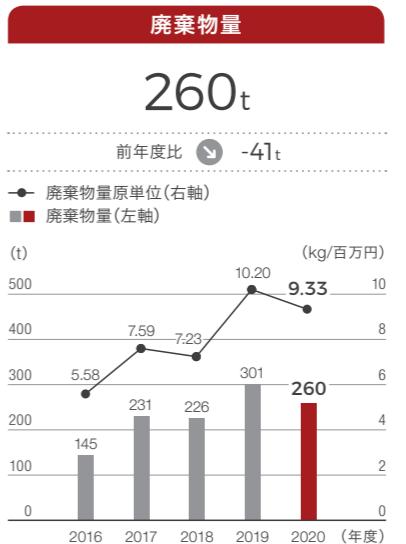
非財務データ IDEC単体

※原単位算出方法の見直し・変更を行い、過年度データを修正しました



スコープ3(サプライチェーン全体のCO₂排出量)の算定基準を策定し、国内グループ会社を含めて2021年度から四半期ごとにデータを集計予定です。集計データは効果的なCO₂削減施策検討のために活用します。

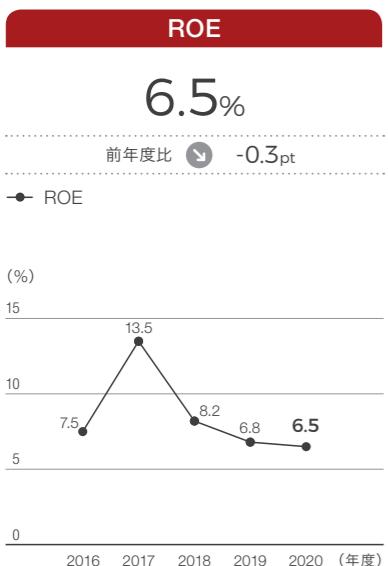
※2019年度のCO₂排出係数を変更し、CO₂排出量を修正しました。



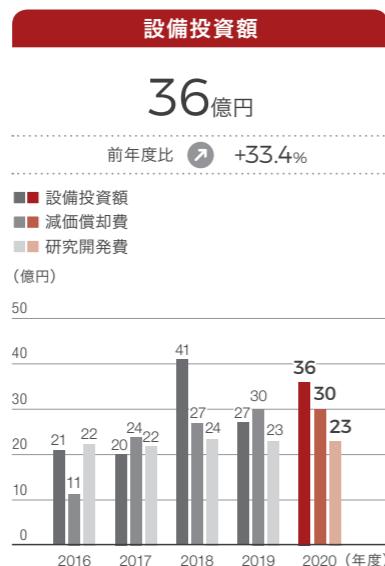
廃プラスチック削減のため、自社リサイクルを強化し、リサイクルできるものの精査を行ないリサイクル率向上を図っています。本社や国内主要事業所では社内自販機でのPETボトル飲料の販売停止を継続しています。



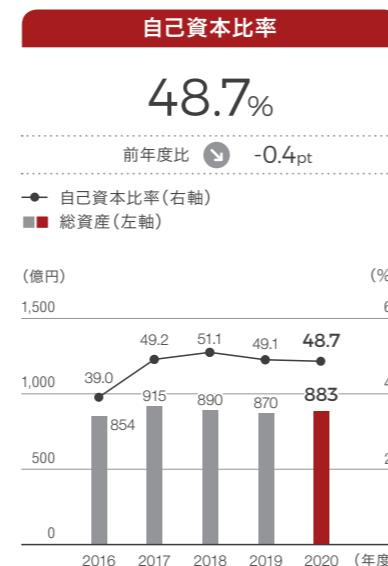
ペーパーレス推進のため、紙での決裁申請を廃止し、電子印で申請・承認が行えるようにしました。アセンブルセンターでは紙の作業指示書を書き換え可能なカードに変更したこと、紙や保管スペースの節約につながっています。



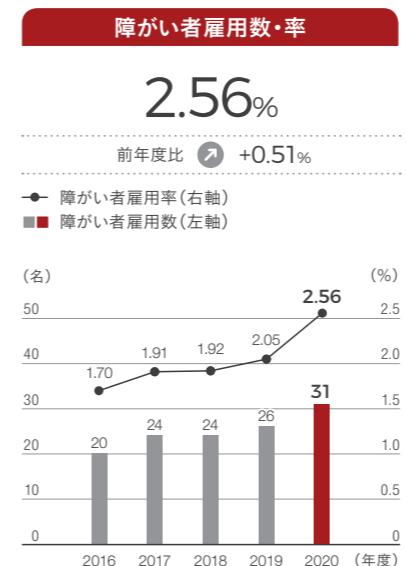
厳しい事業環境の影響により、当期純利益が減少したことなどから、ROEは6.5%となりました。



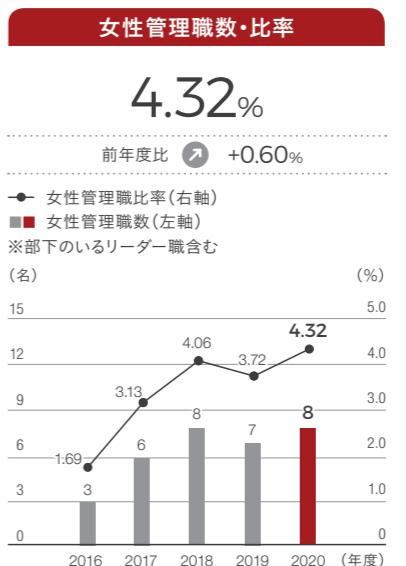
国内外の子会社における工場の新規建設、移転などにより、設備投資額は前年度比で増加しました。



APEM社を買収した2016年度に自己資本比率が40%を下回ったものの、その後は50%前後で推移しています。



職場環境や適性を確認した上で働いていただけます。職場体験やトライアル雇用の機会を設けています。外部のジョブコーチ支援事業を利用し、本人と関係者が集まり話し合う場を毎月持つなど、職場適応支援も行っています。



女性活躍推進のため、次世代幹部候補に女性社員を選抜し、人材育成に取り組んでいます。2021年度は女性社員向けに管理職養成プログラムを実施予定です。2025年度までに女性管理職比率10%を目指しています。



リスク低減のため、生産拠点で設備・作業のリスクアセスメントや、社員による「気付き報告」を実施しています。滝野事業所では外国人技能実習生向けに緊急避難指示や作業手順書をベトナム語に翻訳し活用しています。



CEO Message

**人と機械の最適環境の創造により、
多様化する社会課題の解決に貢献し、
持続的な成長を目指します。**

安全・安心な社会の実現に加え、全ての人々の
ウェルビーイング向上のための取り組みを実施しています。

事業活動を通じた社会課題の解決を通して、
持続的な成長と高収益体质に向けた変革を推進します。

安全・安心・ウェルビーイング*向上に 向けた取り組み

1945年の創業以来、IDECはさまざまな製品やサービスを社会に提供してまいりました。2019年に制定した新しい理念『The IDEC Way』では、Visionとして「Pioneer the new norm for a safer and sustainable world. (いつも、ずっと、みんなに新しい安心を)」を掲げており、ものづくりの未来と新たな可能性を創造し、明日の「当たり前」となる、新しいスタンダードの開拓者になるとともに、全ての人々に幸福と安心をもたらす、より安全で持続可能な社会の実現を目指しております。

また、事業活動を通じた社会課題の解決により、「持続可能な開発目標(SDGs)」を達成していくためのさまざまな取り組みを行っております。2009年から国連グローバル・コンパクトに加盟し、10原則に基づいた活動を推進しており、2018年4月にはCSR委員会を立ち上げました。



環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)、そしてIDECの強みである安全(Sa)と品質(Q)を中心分野と定め、継続的なCSR活動を推進しております。

2018年1月には、国連の専門機関である ILO(国際労働機関)傘下のISSA(International Social Security Association)が推進する労働安全衛生のVision Zeroキャンペーンに日本で初めて賛同、登録いたしました。これはトップマネジメントが主導し、企業における「安全・健康・ウェルビーイング」を追究するアプローチです。

IDECでは創業当時から、「人の命を守る」製品を開発・提供する企業として、グローバル社会での安全で快適な環境づくりのため、安全・安心を推進するだけでなく、社内外全ての人々のウェルビーイングを向上するための取り組みを推進しております。

*ウェルビーイングとは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。
(出典:厚生労働省ホームページ)



2020年度*の事業概要

新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、2020年度はグローバルで厳しい事業環境となりました。中国は年間を通じて売上高が堅調に推移したものの、日本、米州、EMEAは、経済低迷の影響から売上高が減少いたしました。また注力業界である、工作機械や自動車業界などにおいても、需要低迷や設備投資の先送りなどにより受注が減少いたしました。

しかし、下期からは徐々に売上、受注ともに回復傾向がみられるようになったことから、2020年度の連結売上高は540億円(前年度比7.5%減)となりました。利益については、スイッチ事業など主力製品群の売上減少の影響などから、営業利益は40億円(前年度比14.1%減)、営業利益率7.5%となりました。

一方、事業の構造を改革し持続的な成長を実現するために、デジタルマーケティングや国内外の事業拠点の再編などを推進しております。 ▶ P15

*2020年度は2020年4月から2021年3月までの期間です。

TOPIC

全ての人々のウェルビーイング向上を目指して

IDECでは人間性尊重経営を掲げ、ライフワークバランスや健康経営に取り組むとともに、安全・安心を実現する多様な製品を社会に提供してまいりました。誰もが健康で、幸せに、生き生きと暮らすことができる社会を実現するため、創業以来「安全・安心・ウェルビーイング」の向上に取り組んでおります。

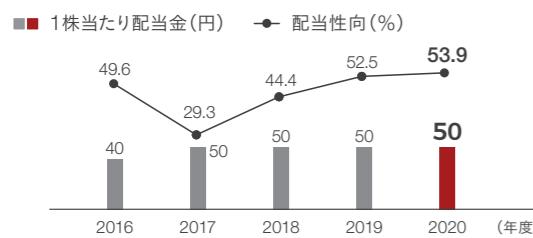
社員に対しては、ヘルスケアセンター・フィットネスジムを設置することで心身の健康維持を図っております。社会に対しては、人と機械が共存する「協調安全/Safety 2.0」により、Missionである人と機械の最適環境を創造することで、全ての人々のウェルビーイング向上を追究してまいります。



株主還元

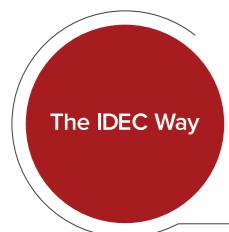
IDECグループでは、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主さまに対する安定的な配当の維持と適正な利益の還元を実施することを経営の最重要施策の一つと認識しております。2020年度の1株当たりの年間配当金は50円となりました。

1株当たり配当金と配当性向の推移



2021年度の取り組み

世界経済に関する先行きの不透明感はありますが、働き方改革の推進や、IoT、DX（デジタル・トランスフォーメーション）などによる産業構造の変化に加え、感染防止対策などの新たなニーズも生まれていることから、時代の変化を踏まえた事業体制の構築が必要不可欠となっております。こういった背景を踏まえ、IDECグループのVision、Mission



Vision

Pioneer the new norm for a safer and sustainable world.

Mission

To create the optimum environment for humans and machines.

いつも、ずっと、みんなに新しい安心を

基本戦略への現在・未来のアプローチ

基本戦略



「成長戦略」の推進

- 成長に紐づく新製品の投入
- 技術課題解決型の販売強化
- 販売チャネルの再編・強化
- 事業領域の拡大



「収益性」の向上

- 材料・製品の統合・品目削減
- 在庫削減・納期短縮
- コストダウンの推進
- 事業の選択と集中



「経営基盤」の強化

- 働き方改革の推進
- 構造改革の推進
- コミュニケーションの活性化
- PMI[®]推進による基盤強化



ESGへの取り組み強化

社会課題への対応

グローバルな社会課題に対応するため、ESGへの取り組み強化を図っております。主な取り組みは以下のとおりです。



環境 環境負荷低減に向けた取り組みの推進

- 再生可能エネルギーの積極的な活用などによるCO₂排出量の削減
- 環境配慮型製品の開発促進や環境に配慮した素材の検討



社会 ダイバーシティの推進

- 女性活躍推進、LGBT教育など各研修・プログラムの企画・実施
- 各種休暇の取得率向上や健康維持・増進の施策実施など、社員が家庭と仕事を両立しやすいディーセンターワークの実現



ガバナンス 経営の透明性・効率性の向上

- 実効性評価の結果を踏まえた取り組みの実施
- 指名委員会を設置し、次世代幹部候補者育成を推進
- グループでのリスクマネジメント体制の構築

新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、「非接触」や「遠隔監視・操作」、人が介在しない「自動化」や「省力化」が、

キーワードとして改めて注目を集めています。IDECグループでは、こういったニーズに最適な製品を数多くラインアップしていることから、社会が求める最適なソリューションを提供し、現場の課題解決を推進しております。

例えば、2020年に発売したスマートRFIDリーダーは、ICカードなどを読み取る非接触の製品です。主力とするFA（ファクトリー・オートメーション）業界だけでなく、医療などNon-FA業界でも安全・安心に使っていただけたことから、新規チャネルの開拓などを積極的に行っております。

また、日本を中心に販売体制の見直しを行っており、既存の販売網を活用したコンポーネンツビジネスの強化に加え、開発部門・生産技術部門・グループ会社が連携することで、お客様の課題解決につながる多様なソリューションを提供できる体制づくりを行っております。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、人々の意識やライフスタイル、社会ニーズなどは大きく変化いたしました。変化は次の成長につながる大きなチャンスでもあります。多様化する社会課題の解決に、IDECグループがこれまで培ってきた制御技術、安全技術を核とするさまざまな製品やソリューションで貢献することで、真のグローバル企業として持続的な成長を目指してまいります。



スマートRFIDリーダー
「KW2D形」

2020年度の取り組み

- Push-in対応製品のラインアップ拡充
- Safety2.0を実現する製品の発売による啓発、浸透
- IoTソリューションの拡販
- アジア・パシフィックでの事業拡大
- 協調安全ロボットシステムの導入加速

- グローバル生産・販売拠点の最適化
- 生産の自動化
- 業務プロセスの見直しと効率化

- 『The IDEC Way』のさらなる浸透
- 従業員意識調査結果等を踏まえた人事制度改革の検討
- グローバルなIT基盤導入による効率化の推進
- 経営環境に応じた人材確保と育成の強化

2021年度の取り組み

- 地域・業界ニーズへの対応によるグローバル市場での競争力強化
- IoTソリューションの加速
- 安全のみならず安心を考えたイノベーション製品の創出
- 中国やインドなど成長市場における事業拡大
- Non-FA業界を含めた事業領域の拡大

- 製品統廃合の推進による生産性の向上
- グローバルサプライチェーンの見直しによる在庫削減・納期短縮
- 不採算製品や事業の構造改革

- 人事制度改革の推進
- 業務標準化、デジタル化、IT・オフィス基盤の見直しなどによる効率化の推進
- 人材の確保・育成、戦略的配置による体制強化
- APEMとのシナジーの追求

持続的な成長に向けて

IDECグループでは、持続的な成長を実現するためにさまざまな改革をグローバルで行うとともに、従来の働き方を改めて見直し、新たな時代を見据えた取り組みを行っています。



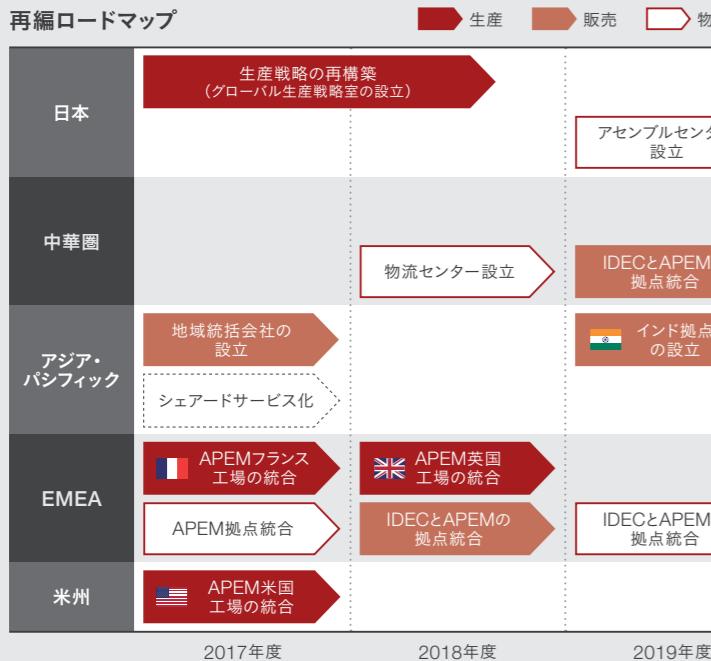
国内外の拠点再編

生産・販売・物流拠点の最適化に向けた国内外の拠点再編を行っています。2020年に筑波の生産拠点を閉鎖し、国内生産拠点の統合を行うとともに、海外においては、蘇州工場を移転し、台湾の新工場を稼働しました。

EMEAや米州では、IDECとAPEMのさらなるシナジー拡大に向けた拠点の統合を進めています。また日本では、スピーディな意思決定を行っていくために国内営業部門を分社化するとともに、18か所の営業所を東京と大阪の2拠点に集約し、オフィスに依存しない営業体制を構築しています。



台湾の新工場



※IFS:IDECファクトリーソリューションズ株式会社



「感染症に強い工場」の実現

非接触の自動検温システム

生産現場における労働安全衛生の取り組みとして、感染症など外來リスクへの対応といった新しい概念が必要となっていることから、感染症に強い工場の実現に向けた取り組みを進めています。

IDECのスマートRFIDリーダ「KW2D形」などの製品と、市販のサーモカメラを組み合わせた非接触の自動検温システムを構築し、国内全ての生産・物流拠点に導入しました。入館前に社員証をRFIDで読み取ることで、計測結果を自動でクラウド上に保存し、遠隔で確認・管理することができます。

またアセンブルセンターでは、IDECのウェアラブル端末を活用したピッキング作業や、RFIDカード・タブレットを活用した組み立てなどを導入することで、手を介した感染の防止に加え、効率化や生産性向上を図っています。



アセンブルセンターのピッキング工程



本社に新設したスタジオ



デジタル化の推進

近年、動画の需要が高まっており、配信をベースにした動画映像は今後のビジネスを成長させる重要な鍵となることから、IDECグループの情報発信基地の役割を担う専用スタジオを、2020年に新設しました。

最新の機材を導入したスタジオの開設により、製品販促、オンラインセミナーによるビジネス情報、社内外への情報共有といったさまざまな動画コンテンツを配信し、2020年度セミナーの集客人数は、前年度比の3倍以上となりました。

また、効率的な営業活動を実施していくための取り組みとして、デジタル技術を活用したデジタルマーケティングを推進しています。顧客分析機能や、潜在顧客へのアプローチが可能な、各地域に特化した新しいウェブサイトを公開し、一人ひとりの顧客ニーズに合った情報をタイムリーに提供することで、顧客層の拡大や営業の効率化、サービスの向上を追求していきます。



新しいウェブサイト



<https://jp.idec.com/>



協調安全ロボットシステム事業の拡大

人と同じ現場で働くことのできる協働ロボットは、生産現場の自動化や省人化といった需要を背景に、さまざまな分野で導入が進んでいます。また2020年以降は、感染防止対策での新たなニーズが生まれており、ロボットの需要はさらに拡大しています。

今後グローバルで成長が期待できる協調安全ロボットシステム事業の拡大に向けて、IDECファクトリーソリューションズ株式会社では2021年4月に新工場を稼働しました。また2022年3月には新本社も完成予定で、新本社完成後には協調安全ロボットテクニカルセンターを本社内に移設し、ロボットシステムの生産能力はこれまでの3倍となる予定です。

また同時に、制御システムのグローバル展開を視野に、米国の海外規格UL508A認証を取得しました。制御システムのコンサルティングから、設計、生産まで行うことで、ビジネスの拡大を図っていきます。



新工場(2021年4月稼働)



新本社(2022年3月完成予定)



協調安全ロボットテクニカルセンター

時代のニーズに対応した 最適な製品・ソリューションを提供

IDECは、時代とともに変化する顧客ニーズにお応えするため、制御技術を核とするさまざまな製品・ソリューションに加え、コア技術を活用した新しい価値を提供することで、ものづくりとくらしの未来を支えています。

Industrial Switches



売上高比率
47%

251億円

スイッチ事業 ▶ P19



IDECAPEM

an Electronic Company



非常停止用
押ボタンスイッチ

スマートRFIDリーダ

セーフティコマンダ

表示灯

キーボード

ジョイスティック

産業用スイッチ

Industrial Relays & Components

インダストリアルコンポーネンツ事業 ▶ P21



制御用リレー

端子台

サーキットプロテクタ

産業用LED照明

売上高比率
18%

98億円

オートメーション事業 ▶ P23



プログラマブルコントローラ

プログラマブル表示器

ティーチングペンダント

センシング事業 ▶ P23



センシング機器

New Business

新規事業 ▶ P27



協調安全ロボットシステム

次世代農業ソリューション

環境・エネルギー関連事業

売上高比率
2%

12億円



安全・防爆事業 ▶ P25



防爆表示器ボックス

防爆コントロールボックス



安全リレーモジュール

イネーブルスイッチ



防爆マットスイッチ

防爆ネットワーク
カメラシステム

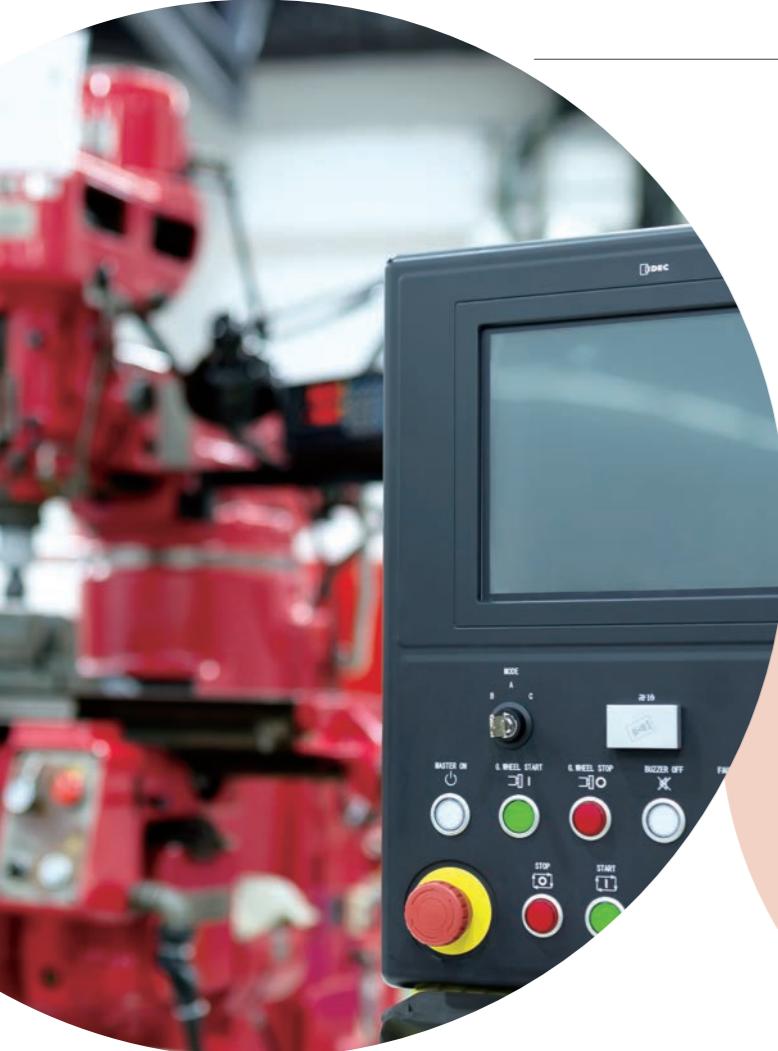
安全スイッチ

セーフティレーザスキャナ

イネーブルスイッチ

安全スイッチ

安全



Industrial Switches

スイッチ事業

スイッチ分野の
リーディングカンパニーとして、
人と機械の最適環境を創造します。

創業以来培ってきた制御技術により、FA(ファクトリー・オートメーション)機器だけでなく生活の身近なシーンにおいても、革新的なソリューションをグローバルに提供し、安全・安心・ウェルビーイングの実現に貢献しています。

製品の品質や耐久性、安全性を追究するとともに、使いやすさ、デザイン性にもこだわった製品ラインアップを備えることで、IDECグループは制御用操作スイッチのグローバルNo.1カンパニーを目指し、人と機械をつなぐさまざまなソリューションを提供してまいります。

2020年度の業績

アジア・パシフィックにおいては、中国で需要が回復したことから、売上は堅調に推移しました。

しかし日本、米州、欧州においては、下期から徐々に市況が回復傾向となったものの、景況感の悪化などの影響を受けたことから、各地域で売上が減少しました。



TOPIC

機械の権限管理や履歴管理を可能にするφ22スマートRFIDリーダ「KW2D形」

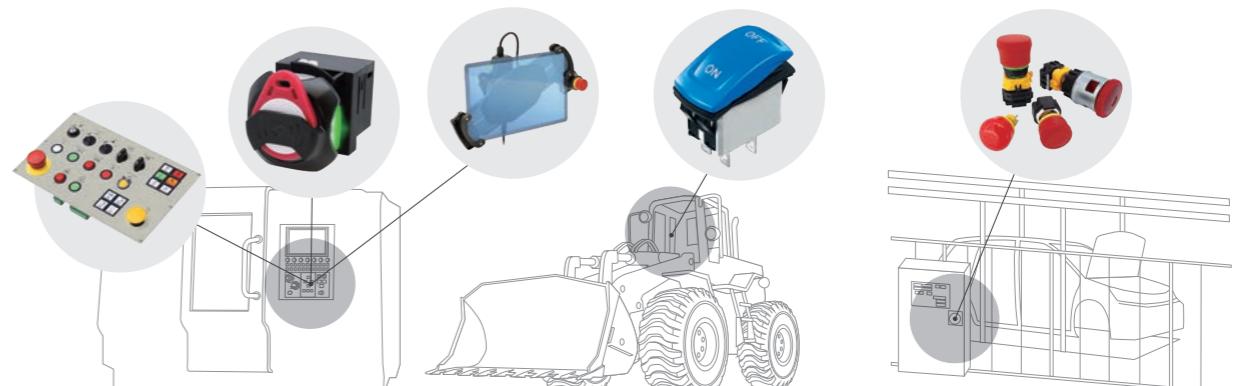
生産現場では、労働者の多様化により、労働災害や機械の故障、不良品の流出等の問題が増加傾向にあり、個人認証による機械の操作権限管理や、検査などの履歴管理のニーズが高まっています。

そこで、社員証などのICカードが読み取り可能な、φ22スマートRFIDリーダ「KW2D形」を2020年にグローバルで発売しました。「KW2D形」はICカードの読み取りだけでなく、鍵の代わりとして欧州で広く使われているKEYFOBタグの読み取りが可能で、あらゆる機械設備の権限管理や、現場での入退室管理、生産ラインの履歴管理を実現します。



スマートRFIDリーダ
「KW2D形」

主な活用シーン



各種装置や特殊車両などのスタイリッシュな操作パネルや、タブレットが取り付け可能なハンディタイプの操作機器

高い安全性が求められる生産ライン等の非常停止用押ボタンスイッチ

事業戦略

制御用操作スイッチの「グローバルシェアNo.1」へ

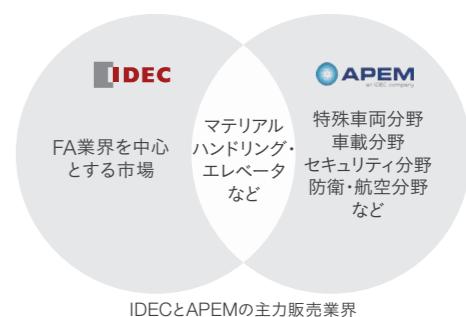
1958年に制御用操作スイッチの販売を開始して以来、製品ラインアップを拡大するとともに、設計の見直しや品質改良を重ねることで日本国内で高い市場シェアを獲得してきました。近年、多様な人材が働くうえで、誰でも安全に、簡単に、そして効率よく働く環境の整備が求められていることから、省配線・省スペース・高い信頼性を実現するPush-in接続方式を採用した製品のラインアップ拡充に取り組んでいます。

2017年には、フランスのAPEM社がIDECグループに加わり、地域ポートフォリオの適正化を図ることができました。両社の得意とする業界や地域を相互補完することで売上を拡大するとともに、テクノロジー面でもシナジー効果を生み出し、次世代のHMI製品を創造し続けることで事業の拡大を推進しています。

制御用操作スイッチのリーディングカンパニーとして、社会のニーズに対応した製品とソリューションを創造し、お客様の生産性向上のためにHMI環境を革新し続けていきます。



主力製品の国内シェア(2021年3月末時点) ※当社調べ



IDECとAPEMの主力販売業界

生産現場のタブレットに安全機能をプラス

近年、生産現場では、操作パネルや教示用ペンダントの代わりに、高機能で安価な市販のタブレットを使用するケースが増加しています。しかしISO/IECの安全規格の観点から、機械など危険源の近くで使用する場合は、非常停止用押ボタンスイッチやイネーブルスイッチなどの安全機器の搭載が要求されており、タブレット導入の障壁となっています。

そこで、市販されている多様なタブレットに安全機能を装着可能な、セーフティコマンド「HT3P形」をグローバルで発売しました。生産ラインや装置の制御、ロボットのティーチングなどにタブレットを活用いただくことが可能となり、安全性、利便性の向上やコスト削減に貢献します。



セーフティコマンド「HT3P形」



Industrial Relays & Components

インダストリアルコンポーネンツ事業

幅広いラインアップで、
お客様の課題を解決します。

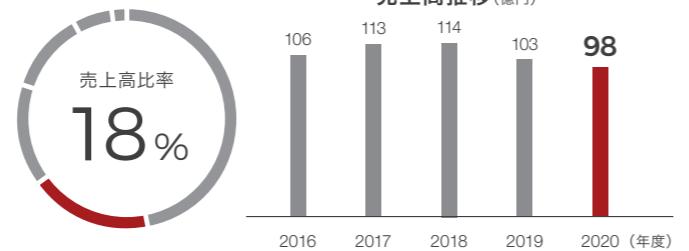
インダストリアルコンポーネンツは、機械装置や生産ラインを操作・制御するために使われる、制御盤や制御部に組み込まれる各種電気機器の総称で、生産現場はもちろんのこと、エレベータ制御を含むビルの設備管理や自動倉庫、工作機械や半導体製造装置など幅広いシーンで使用されています。

装置や設備のインテリジェント化や省スペース化、品質の安定化のニーズがますます強まっていることから、IDECKでは制御盤内の各種機器に新しい技術を付加し、作業効率の向上や利便性の高い快適な生産環境を提案することで、さまざまな課題解決をサポートし続けています。

2020年度の業績

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、設備投資需要が減少したことから、主力市場である日本や米州を中心に売上が減少しました。

一方、中国においては制御用リレーの売上が堅調に推移しました。



TOPIC

組端子サービスの強化による販売拡大

BNシリーズをはじめとする端子台は、現場での作業効率を高めるためDINレールに取り付けた状態「組端子」でお届けするサービスが好評です。

Push-in端子台「Aシリーズ」や、固定端子台「BTBシリーズ」など幅広い製品に展開し、短納期でお届けすることで、さらに販売を拡大していきます。



端子台レイアウトソフト画面

主な活用シーン



生産設備の制御盤

船舶用制御盤

装置内に設置するLED照明

事業戦略

成長する電源市場に最適な小形スイッチングパワーサプライを投入

コロナ禍でニューノーマルな環境を作り出す各種新装置や機器、工場の状態監視や遠隔地のセキュリティの「見える化」を実現するIoT機器など、どの機器にも電源が必要になります。これらの装置・機器の搭載に最適な、耐温度・ノイズ性能が高く、小形で高効率、取付位置の自由度の高い小形スイッチングパワーサプライ「PS3V形」を発売しました。各種安全規格に対応し、国内外のFA用途、冷凍・冷蔵庫やオフィス用機器等をターゲットに拡販展開を図ります。



アプリケーション事例



食品の保存設備

駅ホームの安全設備

Push-in製品とサービスの拡充

制御盤の課題である、小形化、省配線、省工数を実現するPush-in製品の拡充はもちろん、フェルールの自動圧着機などのレンタルサービス・工具校正サービス、お試しスタートキットによるPush-in導入を簡単に推進いただくサービスを含めた、総合サポート体制の構築に取り組んでいます。

従来のPush-in対応製品に加え、スマートRFIDリーダ、安全リレーモジュール、スイッチングパワーサプライを新たに追加。配線工数の削減と安定した配線品質の実現、増し締め不要の利便性で、社会に貢献します。

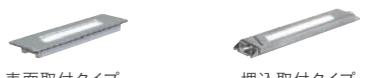
		2019年度	2020年度
盤前面	10,000品目以上	HWシリーズ CW/YWシリーズ	スマートRFIDリーダ
盤内部	3,000品目以上	プログラマブル コントローラ リレー 安全リレー ソケット モジュール	スイッチング パワーサプライ
盤端子部・周辺機器	5,000品目以上	端子台 レンタルサービス 工具校正サービス	工具&フェルール

顧客ニーズに応えるLED照明のシェア拡大

工作機械内での使用時に、LEDの点光源による対象物のマルチシャドウ(多重影)や光源の映り込みによる手元の見づらさを解消したい、というニーズに応えたLED照明ユニット「LF3D形」を開発しました。

IDECK独自の光学設計と最適なLED配置の組み合わせにより、マルチシャドウや映り込みを抑え、加工対象物の傷や凹凸の細かな部分を確認することができます。また、従来品から発光面の輝度分布の明暗差を85%も改善し、均一な光で機内をムラなく照らすことができるほか、作業者の眩しさを低減するグレアセーブモードを標準装備するなど、IDECKの高い技術で市場ニーズに応える製品を生み出しています。

LF3D形



当社従来品 → LF3D形



光源の映り込みやマルチシャドウを低減(特許出願済み)



Automation & Sensing

オートメーション事業 / センシング事業

IoTやIndustry 4.0時代に 最適なソリューションを提供します。

労働人口の減少やIoTなどの進展にともない、遠隔監視・操作への対応に加え、作業の高効率化や自動化推進のキーデバイスとなる製品の需要が高まっていることから、多種多様な製品をラインアップしています。

機械設備や生産ラインを制御するプログラマブルコントローラや、快適な操作環境を実現するプログラマブル表示器などのオートメーション機器に加え、状態の変化や物体を検出するセンサ、トレーサビリティ用途での需要が拡大するコードリーダ、RFIDなどの自動認識機器といったセンシング機器など幅広いソリューションを提供することで、生産の自動化・効率化に貢献しています。

2020年度の業績

日本においては、プログラマブル表示器やプログラマブルコントローラの減少に加え、2019年の消費増税前に需要が増加したバーコードリーダなど自動認識機器の売上が、前年度に比べて減少しました。

一方で、欧州におけるプログラマブルコントローラの需要増加などにより、オートメーション事業の売上は全体として好調に推移しました。



TOPIC

高速搬送での検知を実現する小形光電スイッチ「SA2E形」

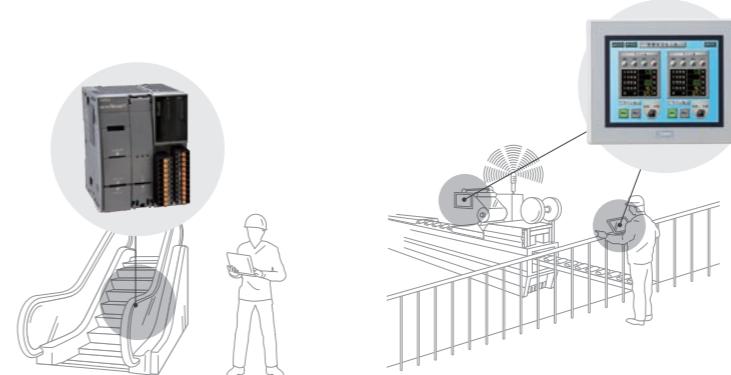
IoTの進展にともない、さまざまな業界でセンサの需要は高まっています。これまで、高速移動する小形ワークは、間隔をあけて検知する必要がありました。しかし、2021年に発売したアンプ内蔵小形光電センサ「SA2E形」は、従来製品と比べて半分の応答時間となる0.5msを実現し、連続した小形ワークの高速搬送での検知が可能となりました。

また、異なる検出距離や検出方式の製品をラインアップすることで、用途に応じて最適な製品を選択することができ、多様なニーズにお応えできます。



小形光電スイッチ「SA2E形」

主な活用シーン



遠隔監視・操作を実現する
プログラマブルコントローラやプログラマブル表示器



作業効率を向上させるウェアラブル端末

事業戦略

/ MQTT対応によりクラウドサーバーに直接データ送信が可能に

各種機器から集めたデータをサーバーに保存し、分析・活用したい、という需要の高まりを受け、2020年よりプログラマブルコントローラ(PLC)「FC6A形Plus」が、MQTTプロトコルに対応しました。

IoTに適した通信プロトコルとして国内外で広く利用されているMQTTですが、対応する産業用コントローラは限られているため、データをサーバへ送信する場合はMQTTプロトコルに変換するための通信機器や、中継サーバーが必要でした。FC6A形PlusがMQTT対応となつたことで、PLCから直接データ収集サーバーと通信することができ、制御とセンシング、通信を1台で行えることから、簡単にIoT化の需要に対応することができました。



プログラマブルコントローラ
「FC6A形Plus」

/ IoTを実現するソリューション提案を推進

あらゆるものが「つながる」時代に最適な、プログラマブルコントローラ、プログラマブル表示器、センサ、コードリーダなどにIoTを実現する機能を強化し、さまざまな課題解決に貢献するソリューション提案を推進しています。

遠隔監視と操作システムのイメージ

データをためる	現場で必要なデータを検出／測定します。
データを送る	インターネット上のサーバーにデータを送ります。
データを見せる	遠隔地でも、パソコン、タブレットなどの端末から現場の状況を知ることができます。
メールで通報する	異常が発生すると警報メールを発信します。
遠隔地から操作する	離れた場所から現場の設定を変更できます。 IO-Link対応のセンサではパラメータの変更が可能です。





Safety & Explosion Protection

安全・防爆事業

世界一安全・安心・ウェルビーイングを追求・実現する企業として、安全性と生産性向上に役立つソリューションを提供します。

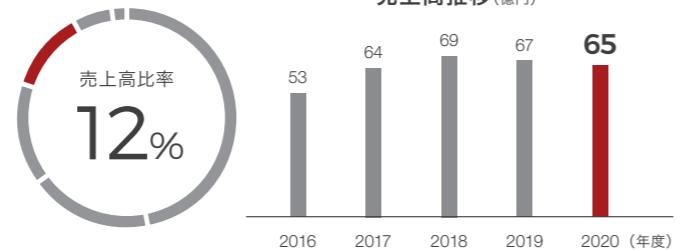
IDECは創業以来、人と機械の安全で快適な環境づくりを目指し、多様な安全関連機器や防爆関連機器を開発し、機械の隔離と停止を実現するSafety1.0製品の普及拡大を図っています。

人と機械の協調安全を実現する次世代の安全思想「協調安全/Safety2.0」の考え方に基づき、機械情報の活用により人が危険を回避することや、人情報の活用により機械の危険な制御を防止することを可能にした、新たな安全関連機器アプリケーションをご提案すると同時に、新たな規格づくりや、コンサルティングといった安全の普及活動にも力を入れています。

2020年度の業績

グローバルな設備投資需要の減少や景況感悪化の影響により、セーフティレーザスキャナなど一部製品の売上が減少しましたが、中国の売上が好調に推移したこともあり、安全関連機器の売上はほぼ横ばいとなりました。

防爆関連機器については、主に日本において売上が減少しました。



TOPIC

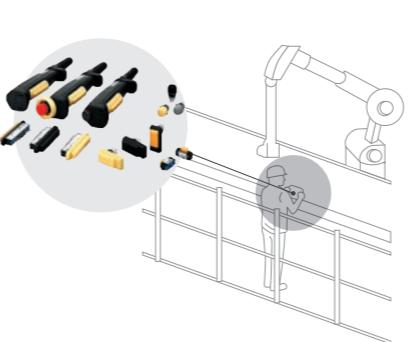
防爆関連機器のポートフォリオを拡大

可燃性ガスや液体が存在する現場では、安全確保のために通常の制御機器ではなく、防爆エリアでも使用できる防爆製品が必要不可欠です。IDECグループの強みや知見を融合し、2019年に存在検知が可能な防爆マットスイッチを発売し、2020年には耐環境性が高く、ガス・蒸気防爆と粉じん防爆にも対応した防爆LED照明「HLL形」を発売しました。

今後はさらなるシェア拡大を目指し、国際規格であるIEC-EX認証を取得した「EU2B形」コントロールユニットの販売拡大を推進することで、防爆関連機器のグローバル展開を図ります。



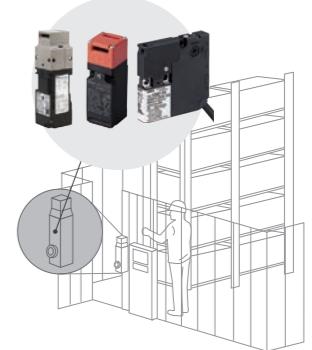
主な活用シーン



生産ライン等で安全性を確保するインープルスイッチ



エリア内の存在検知が可能なセーフティレーザスキャナ



扉や安全柵の開閉を検知し安全対策に役立つ安全スイッチ

事業戦略

/ 協調安全/Safety2.0のリーディングカンパニー

安全への考え方は、人の注意力や判断力により安全を確保してきたSafety0.0に始まり、機械側に安全対策を施し隔離と停止により安全化を図るSafety1.0、そして近年では、人と機械が協調し、安全性と生産性の両立を実現するSafety2.0へと、時代とともに変遷しています。

安全スイッチやインープルスイッチに加え、セーフティレーザスキャナや安全リレーモジュールなど、さまざまなアプリケーションに活用できる安全関連機器のシェア拡大を目指しています。

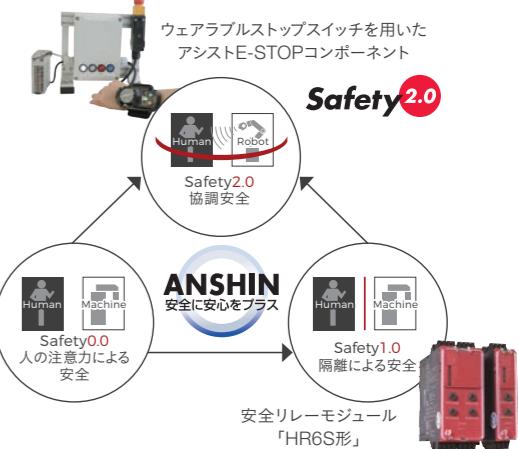
現場の今を支えているSafety1.0製品の拡販を図ると同時に、「協調安全/Safety2.0」の実現に向け、手元に装着したスイッチを操作することで、離れた場所から機械を非常停止させることができる、ウェアラブルストップスイッチなどの革新的なSafety2.0製品の開発を進めています。

/ 世界一安全・安心・ウェルビーイングを追求・実現する企業へ

「協調安全/Safety2.0」は、技術開発に加え、人材育成、マネジメント、社会ルール形成の4つの側面から包括的にアプローチすることで、安全性と生産性の向上を実現します。

他社との技術開発や、ロボット・セーフティアセッサ等の安全のプロフェッショナル人材育成、安全・健康・ウェルビーイングの向上を図るVision Zeroへの参画、国際標準の指南書となる白書“Safety in the Future”策定を通じて、安全・安心・ウェルビーイングの新たな潮流を形成し、業界業種の垣根を超えたグローバルへの拡大を図っています。

また、大きな潜在需要がある中国市場での事業拡大に向けた取り組みも推進しており、中国国家標準化管理委員会(SAC)と、2017年から安全や標準化に関する技術交流会を行っています。2020年には、中国各地でウェビナー形式の安全セミナーを実施しました。今後、中国の需要に特化した安全関連機器も展開予定です。



上海の安全セミナー

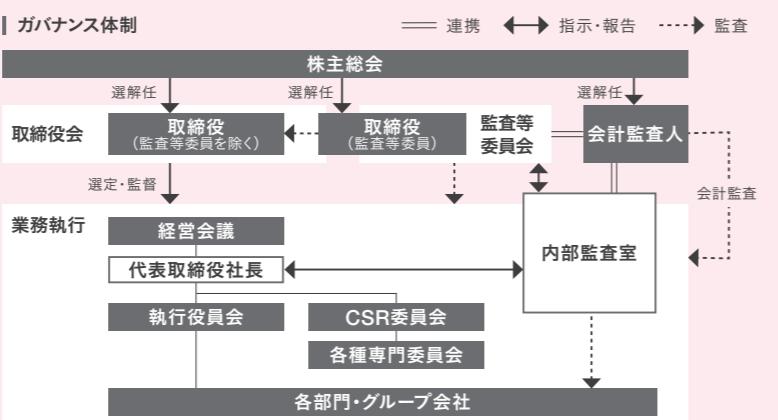


ガバナンス

株主さまをはじめとするステークホルダーに対して、経営の透明性と効率性を確保するために、ガバナンス体制のさらなる強化を推進します。

社外取締役比率
(2021年6月時点)

社内取締役
3名
社外取締役
6名
社外比率
67%



コーポレートガバナンス

ガバナンス体制

監査等委員会設置会社として、取締役全員が議決権を持って活発な議論を行い、監査・監督機能の強化を実現しています。取締役会は社外役員を多く任用し、経営の透明性を確保しています。

任意の指名委員会と報酬方針

次世代幹部の候補者や育成計画を客観性・独立性を持って決定していくため、社外役員が過半数を占める任意の指名委員会を設置しています。

また取締役の報酬決定については、報酬方針を定めて取締役会で客観性をもって決議し、事業報告などに掲載しています。

社外役員交流会

社外役員とのコミュニケーション強化のため、2018年度から「社外役員交流会」を開催しています。2020年度は製品への理解を深めるため、新製品や注力製品について担当部長と社外役員が意見交換しました。

コンプライアンス

行動基準

職務を行ううえでの基本的な行動指針を「IDEC Group Code of Conduct」としてグローバルに発行し、社内インフラで国内外のグループ会社社員が自由に閲覧できるようにしています。また、職責に応じた階層別研修におけるコンプライアンス研修も継続的に実施しています。

内部通報制度

通報窓口である「IDECホットライン」を周知し、社員が利用しやすい環境を構築しています。また、グループ会社から本社の通報窓口へダイレクトに通報できる「グローバルホットライン」の整備にも着手し、地域ごとに優先度をつけて順次導入を図っています。



リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

リスクマネジメント委員会において業務上のリスクを想定し、その影響度や発生頻度を試算してリスクマップを策定しています。その中から年度ごとにターゲットリスクを定め、全社および各部門がリスク低減に向けた対策を実施し、毎年2回の進捗会議でモニタリングしています。2020年度からはリスクモニタリングの対象をグループ会社まで拡大するべく、グループ会社でのリスクマップ策定を進めています。

また、2020年度は緊急対策本部を設置し、新型コロナウイルスの感染拡大による影響や対策を展開しました。

主なリスク	主な対策
生産事業所の労働災害防止	● 安全衛生マネジメントシステム運用によるリスク低減と法的要件の遵守
製品事故発生防止	● QMSの手順書、帳票の整備
ハラスメント防止	● 教育の継続実施 ● 相談窓口の周知
情報セキュリティ対策	● IoTアップグレード ● セキュリティログ監視強化

役員紹介

取締役



船木 俊之
代表取締役会長兼社長



船木 幹雄
代表取締役専務



山本 卓二
常務取締役



小林 浩
社外取締役
新任



大久保 秀之
社外取締役

取締役 (監査等委員)



川人 正孝
社外取締役



金井 美智子
社外取締役



八田 信男
社外取締役



姫岩 康雄
社外取締役

取締役に期待するスキルマトリックス

船木 俊之	船木 幹雄	山本 卓二	小林 浩	大久保 秀之	期待する分野*	川人 正孝	金井 美智子	八田 信男	姫岩 康雄
●	●	●	●	●	企業経営・経営戦略	●		●	
●	●				法務・リスク管理	●	●	●	●
●	●	●	●	●	人事・人材開発	●	●		
●	●				財務・会計	●	●	●	●
●	●	●		●	研究開発・生産				
●	●	●	●	●	営業販売	●		●	
●	●	●	●	●	国際ビジネス	●	●	●	●
●	●	●	●	●	業界の知見	●	●	●	●

*●は特に期待する分野を指します。

取締役会実効性評価

取締役会の実効性向上のため、2015年度から毎年、代表取締役社長を除く全ての取締役を対象としたアンケート方式で評価を実施しています。結果を取締役会に報告し課題を共有したうえで、改善の取り組みを継続的に進めています。

アンケート項目・結果

1 取締役会の構成

人数と多様性

2 取締役会の運営

実施回数／所要時間／審議内容

3 コミュニケーション

中長期的議論／役員間コミュニケーション

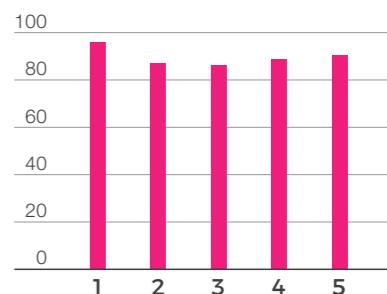
4 リスクマネジメント・コンプライアンス

適切なレビュー／内部統制システム

5 役員への情報提供

情報提供体制／投資家・株主からのフィードバック

2019年度評価結果



評議会結果

- 社外取締役の比率が高く、各分野の専門性を持った人員で構成できている
- 業務的かつ忌憚のない意見が述べられ経営への監督機能が発揮されている
- 交流会の開始により社外役員のコミュニケーションは改善されている

結果を踏まえた今後の課題

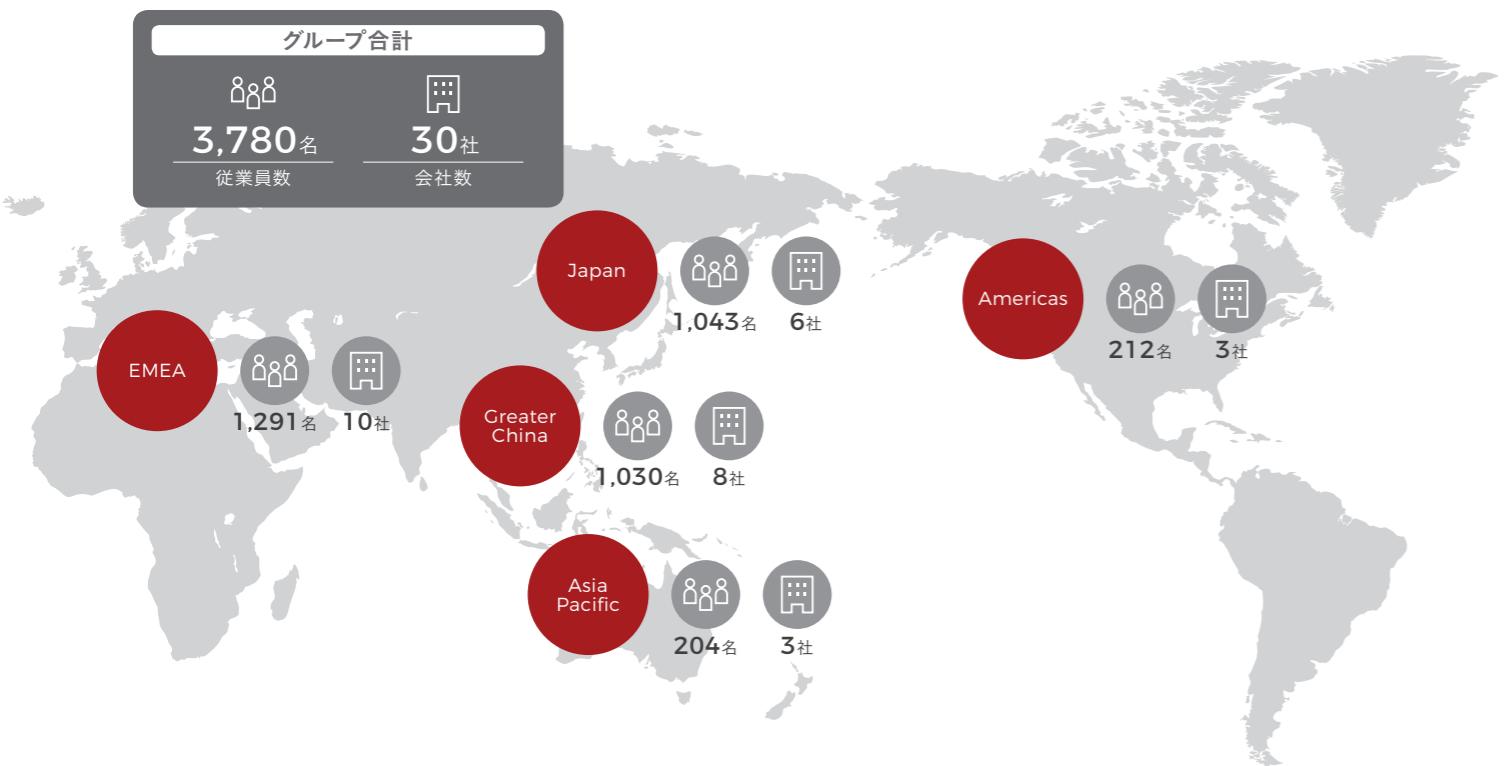
- さらなるグローバル化を見据えた多国籍構成の取締役会
- 次世代幹部候補者の育成
- 取締役会メンバーと幹部育成候補者との接点機会の増加
- 中長期的な経営戦略についての検討機会の増加
- 経営における透明性、効率性、モニタリング力の強化

企業概要

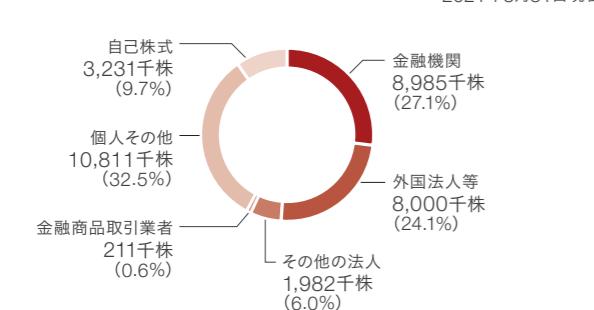
社名	IDEC株式会社
英文社名	IDEC CORPORATION
設立	1947年3月26日
資本金	10,056,605,173円
社員数	連結3,780名(2021年3月31日現在) ※特定社員・臨時社員含まず
上場取引所	東京証券取引所市場第1部

2021年3月31日現在

本社/ 技術研究センター	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目6番64号 電話:06-6398-2500(代表)
東京営業所	〒105-0022 東京都港区海岸1丁目 16-1 ニュービア竹芝サウスタワー15F 電話:03-6625-5180(代表)
事業所	尼崎、福崎、滝野、木場
営業所	東京、大阪
物流センター	竜野

グローバル事業展開**株式の状況**

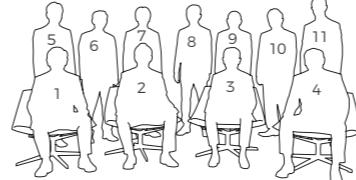
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	33,224,485株
株主総数	8,113名

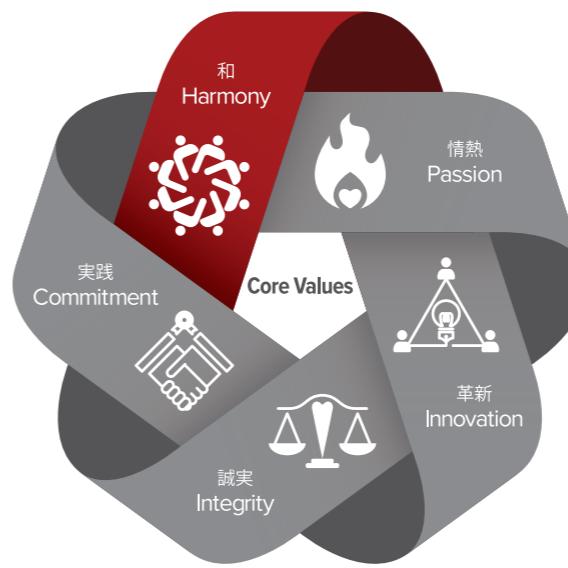
所有者別分布**大株主 (上位10位)**

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行	5,022	16.75
JP MORGAN CHASE BANK	3,006	10.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,575	8.59
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,122	3.74
有限会社船木興産	1,041	3.47
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED	817	2.73
BBH FOR GLOBAL X ROBOTICS AND ARTIFICIAL INTELLIGENCE ETF	740	2.47
藤田慶二郎	652	2.18
CLEARSTREAM BANKING S.A.	477	1.59
株式会社みずほ銀行	412	1.38

(注)上記大株主の記載は、有価証券報告書の開示内容に準じています。

執行役員

- | | | | | |
|--|--------------------------------------|-------------------------------------|--|---|
|  | 1 赤松 浩二
常務執行役員
生産・SCM担当 | 2 藤田 俊弘
常務執行役員
技術経営担当 | 3 Arnaud Mondi
常務執行役員
マーケティング戦略担当 | 4 河中 泰治
常務執行役員
国内営業担当
中国事業推進担当(兼) |
| | 5 鈴 正樹
執行役員
品質保証担当 | 6 西山 嘉彦
執行役員
経営管理担当 | 7 吉見 晋一
執行役員
経営戦略企画担当 | 8 松本 敦
執行役員
開発担当 |
| | 9 錦 朋範
常務執行役員
技術開発・環境担当 | 10 原田 博丞
執行役員
新規事業開発担当 | 11 Marc Enjalbert
執行役員
APEM担当 | |

Core Values

- | | |
|---|---|
|  | Harmony 和
ビジョン実現のために全てのステークホルダーと協調する。 |
|  | Passion 情熱
常に情熱と誇りを持って、楽しく最高のパフォーマンスを追求する。 |
|  | Innovation 革新
お互いの個性を活かし、失敗を恐れず挑戦することで、進化し続ける。 |
|  | Integrity 誠実
何事にも真摯に向き合い、誠実・公正に行動することで、信頼される存在であり続ける。 |
|  | Commitment 実践
オーナーシップを持ち、スピーディーかつ効率的にそれぞれの役割を遂行する。 |